

秦野支部の生い立ち

秦野支部の歴史は古く、戦前から地域内の同業者が親睦団体として発足し、当初22名の組合員で運営されていた。

昭和43年の神奈川県板金工業組合の創立に伴い、秦野組合も加入し正式の県板秦野支部として活動した。

10年前に支部内の事情により現在では僅少の組合員になりましたが、今後旧組合員とも話し合いを行い、秦野支部を再度以前のような組合運営ができるよう努力をしていきたいと考えております。

街の紹介

秦野市は、県の中央西部にあって、東は伊勢原市に、南は中井町と平塚市に、西は松田町と大井町に、北は清川村と厚木市にそれぞれ隣接している。

市の北部は塔ヶ岳、鍋割川、大山など丹沢連峰の南斜面で、南部には渋沢丘陵と呼ばれる台地があり、その間の秦野盆地として盛えた街であります。

明治22年4月の市町村制度施行から、昭和15年に秦野と南秦野が町制を施行し、同30年1月に市政を施行いたしました。

現在、秦野は神奈川県の屋根、丹沢の玄関口であり、小田急線で新宿より75分、小田原より20分、横浜より60分のところに位置し、「緑豊かな暮らしよい都市」を目指し、丹沢山塊は、若人の山として知られています。

また、市内の地下水は水質もよく、昭和60年には環境庁が選定した「名水百選」のうち第1次選定の31ヶ所に選ばれたのは県内では秦野だけです。その昔、弘法大師が杖をついて水を出したといわれる「弘法の清水」が有名であります。

支部組合員

市川 嘉隆（匠社寺板金）

河口 哲也（河口板金）

久保田和男（久保田板金工業所・理事 総代）

内藤 一正（内藤板金工業）

山口 高広（翔工業）

